

熊楠 works

2008年11月1日

No. 32

題字は熊楠自筆

■発行／南方熊楠顕彰会 〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
http://www.minakata.org/ 〈E-mail〉 minakata@mb.aikis.or.jp

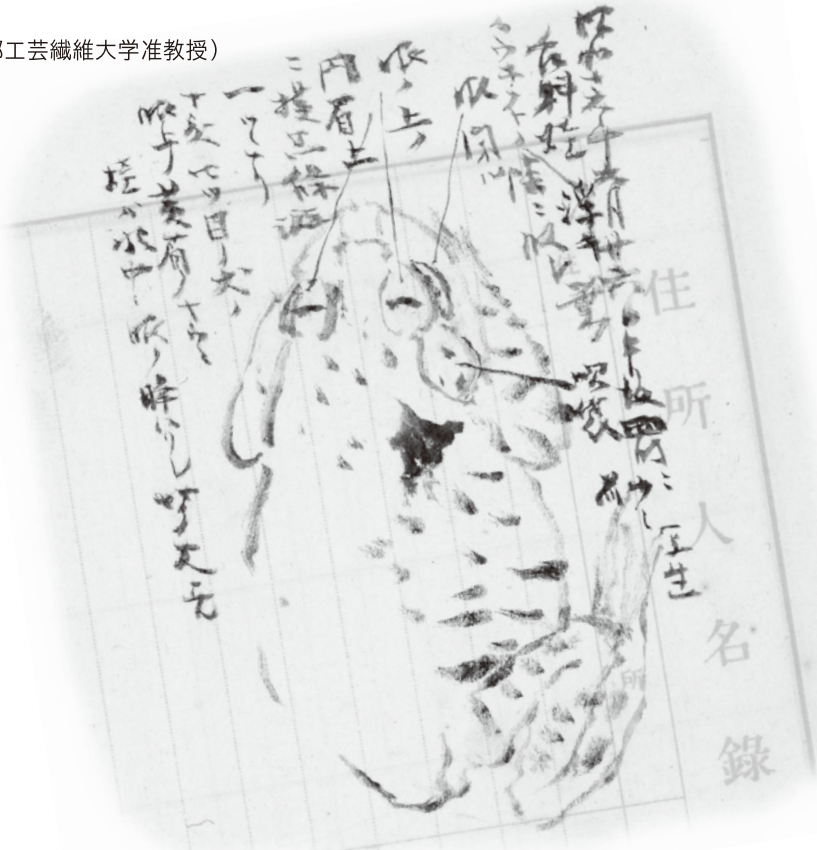
自筆資料に見る南方熊楠……………③

日記中の画

文／岩崎 仁（南方熊楠顕彰会理事・京都工芸繊維大学准教授）



明治14(1881)年の熊楠日記 表紙



「日記」は熊楠を知る上で、最も重要、かつ最も信頼しうる資料と言える。南方熊楠顕彰館が所蔵している熊楠日記は、熊楠14歳の明治14年分が最も古く、この年は4月24日に始まり10月11日で終わっている。明治16年7月1日に「備忘録」として再スタートし、翌年の4月3日まで続くが、この間はおそらく出納帳といった内容である。そして明治18(1885)年1月1日から再々スタートし、亡くなる半月前の12月12日まで記された昭和16(1941)年分まであわせて68点を確認することができる。(1897、1939年の2年分と1910年の一部は南方熊楠記念館蔵)

熊楠は、眼にしたものや頭の中に浮かぶイメージを固定化して残すため、日記中に多くの画を描いている。ここで紹介する画は、昭和16年の日記巻末「住所人名録」のページに描かれたものである。周囲の説明書きは「昭和十六年六月二十六日午後四時少し前に写生」と始まり、熊楠が亡くなる半年前に描かれた画であることがわかる。続いて「食料蛙

カウホネ(スイレン科の水生植物)の浮き葉の陰に臥し 眼閉る 眼の上の円眉上に 横黒條斑一づつあり 丁度四つ目の犬の眼上の黄眉のやうに 蛙が水中に眼を睜はりし如く見える」と読める。まず蛙を写生し、次に説明を書き加え、線を引いて「眼」や「眼の上」を示し、さらに、眼の下の膨らみを「嚙袋」と書き入れたものと思われる。

説明文を読み解く際に、「四つ目の犬」そして「黄眉」がよくわからなかった。調べてみたところ、ゾロアスター教の葬送における儀式に四つ目の犬が登場し、これが眼のう上に眉状の斑点をもつ犬のことであるとわかった。そして、熊楠自身がこの「儀式」について言及していた。いわゆる「十二支考」の「虎に関する俚伝と迷信」[大正3年1月1日『日本及日本人』621号]に「かつてインドの^{カウホネ}挿火人(ゾロアスター教信者の意)に聞いたは、かの教の旧儀として、人死する時は四つ目の犬にその尸を がしむ 麩魔を防ぐものだ、と。…… 犬の眼の上に虎皮様の黄褐の点あり、ちょうど眼

のごときをいう。」とあった。まさにこの儀式のことを思い出して「四つ目の犬」そして「黄眉」と説明に引用したものとと思われる。

熊楠、74歳にして、生物に対する知的好奇心も、また驚異的と言われた記憶力も、まだまだ衰えていなかったことを示す蛙の画である。

(括弧書きは著者注)

CONTENTS

第18回南方熊楠賞 授賞式	… 2
南方熊楠賞受賞記念講演 伊藤幹治	… 3
講演会「熊楠をもっと知ろう」 萩原博光	… 8
第4回特別企画展 オフニング講演	…16
岩崎 仁	
研究発表 安田忠典	…17
中瀬喜陽	…20
土永浩史	…22
土永知子	…25
南方熊楠研究奨励事業助成研究決定	…26
特集 熊楠とフロリダ 松居竜五	…27
「熊楠」生物覚え書⑦ 土永知子	…29
熊楠ゆかりの地を訪ねる 中瀬喜陽	…30